



この「NEWSLETTER」は、研究の進捗状況、「フレッシュせんせい教師力アップ教室」の案内や報告、各研究所との共同研究など、研究課の諸活動について紹介します。



よろしくお願ひします

学校現場と共に歩む研究課へ

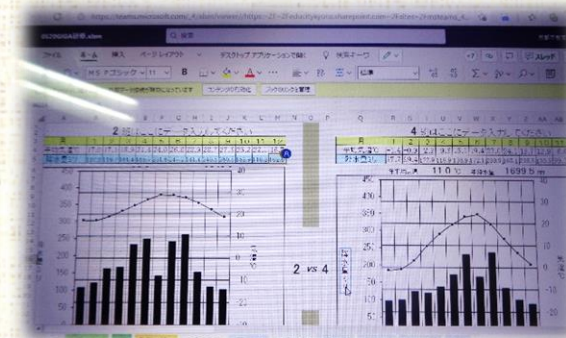
研究課では、「学校教育の重点」に示された教育課題を解明し、さらに解決の方向を探るために、教育委員会関係各課と連携し、複数の学校や先生方にもご協力いただき、教育研究に取り組んでいます。また、今年度は GIGA 端末活用の可能性も探りながら研究を進め、その成果を全市立学校・園及び全国の教育関係機関に提供・発信し、学校現場で活用していただけるように考えています。別紙に、6名の研究員の今年度の研究テーマ・概要を掲載していますので、ぜひご覧ください。



よりよい活用を目指して



研究課では、研究実践に向けて GIGA 端末の効果的な活用について、まず、私たちが学ぼうと研修を行っています。ロイロノートや Microsoft365 を実際に活用し、それぞれの可能性について探りながら、よりよい研究となるように取り組んでいます。



研究課の研究成果は、WEB 発信にて、お知らせ中です。

教育研究発表会の発表動画や各研究員の成果物等を発信しています。

京都市総合教育センター

こちらからアクセスできます。



次号 (232号) の NEWSLETTER について

今後も NEWSLETTER に関しては、こちらの行政情報ネットワークの「新着掲示 BOX」に掲載します。次回の発行は 9月下旬 を予定しています。ぜひご覧ください。



次号 (232号) の内容

- ・研究協力校、研究協力員の紹介
- ・第2回フレッシュせんせい教師力アップ教室の報告
- ・研究実践の様子 (研究員3名より)



第2回 フレッシュせんせい教師力アップ教室

日時 9月10日(金) 18時30分~20時 ※変更になる場合があります。
対象 (小・中・総) 任用1~3年目講師 ※定員 60名
内容 日頃の教育実践についての困りや悩みを共有し、その解決に向けた手立てについてグループのメンバーと意見交流をします。

当日は、GIGA 端末を活用します。

第1回 フレッシュせんせい教師力アップ教室

中止

第1回フレッシュせんせい教師力アップ教室は、緊急事態宣言の延長により中止となりました。

教頭先生に
お声かけください。



第1回 6/4 (金)

グループ交流をもとに、明日から取り組もうと思うことについて考える。

中止

各自実践

第2回 9/10 (金)

グループ交流をもとに、明日から取り組もうと思うことについて考える。

各自実践

第3回 1/18 (火)

1年間で実践した内容を振り返り、グループ交流をもとに、明日から取り組もうと思うことについて考える。

年度途中からもご参加いただけます。

ICTを文房具にする取組 ～授業外での日常的な活用と 授業設計に関わる視点に注目して～ 研究員：木村 祐太

ICTのよさを教育に生かすことができれば、「指導の個別化」や「学習の個性化」による「個別最適な学び」が実現しやすくなる、と同時に、ICTを活用しながら様々な課題を解決する経験は、Society5.0以降の社会を生き抜く子どもたちにとって必須となる情報活用能力の育成に寄与するものになると言われています。そのような教育を実現するために登場したのが、GIGA端末です。書くことにも情報を記録することにも調べることに使える汎用的なツールを、子どもたちが状況に応じてどのように使うかを選択しながら、日常的に使うことが理想とされています。

しかし、「タイピングに不慣れなために時間内に振り返りを記述できなかった」というような、授業時間という制約の中で操作スキルの未熟さが壁となり、その不安が次の実践を遠のかせることにもなります。そこで授業外で日常的に活用することで操作スキルを高めていく取組が必要になると考えます。朝の会、帯時間、休み時間、帰りの会などを使い、気楽に操作スキルを高める取組ができませんでしょうか。また、GIGA端末をどのように使うことが教科等の学習にとって効果的になりやすいのか、教員同士の情報共有・分析の場が重要になります。そこでどのようにすれば授業設計のための「視点」を見だし、授業での日常的な活用につながるのか、実践を通して明らかにしたいと思っています



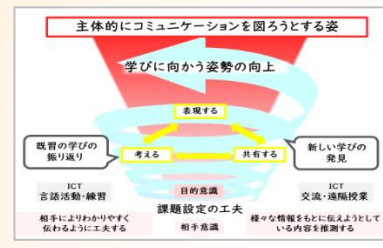
学びをつなぐ外国語教育の一方策 ～外国語を用いて伝え合う必然性のある課題設定を 工夫しながら～ 研究員：丹後 由香

昨年度の研究では、身振りや表情などの非言語的要素の有用性を実感させやすい低学年「英語活動」において、相手意識や児童の「思い」を大切にすることで、「自分から進んで」「間違いを恐れずに」のような学びに向かう姿勢が高められ、主体的にコミュニケーションを図ろうとする姿が見られました。

主体的にコミュニケーションを図る態度を育むためには、この「学びに向かう姿勢」が大きなカギであると考えます。本研究では、低学年英語活動に加え、中学年外国語活動において、相手意識とともに目的意識をもち、外国語を通してよりよいコミュニケーションの在り方について考え、実際に表現しようとする児童の育成を目指していきます。

そのためにまず、課題設定の工夫が重要であると考えます。言語表現を使わせるための活動ではなく、児童の実態や興味・関心を踏まえ、ある目的を達成するために外国語を使う必然性のある課題を設定することで、児童が外国語を通してコミュニケーションを図る意義を実感することができると考えます。

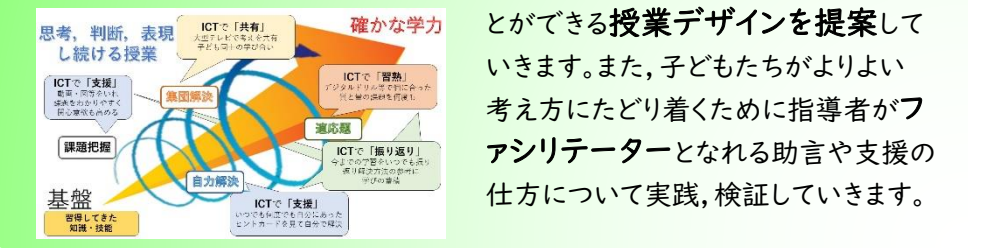
また、自分の思いを伝えるための表現内容や方法について、これまでの学びを振り返りながら考え、判断して、表現する活動を繰り返し行っていくことで、児童の主体的にコミュニケーションを図ろうとする姿勢は高められていくと考えます。



算数科における「個別最適な学び」と 「協働的な学び」の充実を目指して ～子どもが思考し続ける授業デザインの提案～ 研究員：相村 契

「どう考えたらいいかわからない」「ほかの考え方でできないかな」そんな子どもたちがいても、決められた時間の中では、支援できる人数に限りがあり見過ごしてしまったり、本時の目標を達成するために、教師が指名した児童・生徒のみで集団解決を進めたりしていることがしばしばあると思います。学習指導要領において示された3つの資質・能力を育むために、多様な子どもたちを誰一人取り残すことなく育成する「個別最適な学び」と、子どもたちの多様な個性を最大限に生かす「協働的な学び」の充実が求められています。今回、小学校算数科と中学校数学科で、一人一人に合わせた学習活動、全員が自分の考えを伝え合うことができる授業の在り方を共に研究していきたいと思っています。

本研究では、「問題が解けたから〇〇さんのところに考え方を話していこう」「この考え方って結局～～ということだよ」というような、子ども同士で課題解決に向かう協働的な学びとなる授業を目指します。そのために、「自力解決」と「集団解決」の境目をなくし、子どもたち一人一人の状況に合わせて学習を進めることができる授業デザインを提案していきます。また、子どもたちがよりよい考え方にたどり着くために指導者がファシリテーターとなれる助言や支援の仕方について実践、検証していきます。



学びを自己調整する力と情報活用能力の 育成に資する一方策 ～GIGA端末を活用した学習の管理を通して～ 研究員：久保田 守

GIGA端末を目的としてではなく、手段として活用できるようになるためには、文字入力やファイル編集などの基本的な操作、GIGA端末を活用した課題の設定・計画、情報の収集、整理・分析、まとめ・表現、評価・改善を行う能力（情報活用能力）を各教科等の授業やその他の学習活動においても活用できるように身に付けていく必要があります。

本研究では、この情報活用能力を習得し、発揮する場面に授業外での学習管理に置きました。その理由は生徒の学びに対して、見通しをもって勉強できないことや自分に合った学習方法を確立できないことといった課題を感じているからです。具体的な取組としては、生徒自身が定期テスト等の点数を観点別・単元別にデータ化することや日々の学習時間、学習内容をクラウドに記録することから自身の学習記録の整理・分析を行います。また、GIGA端末の特性である“つながる”ことを生かして、教師や友だちから学習を改善していくための新たな視点を取り入れていきます。これらの取組により、これまで可視化することが難しかった個々の学習状況を把握した教師の指導が可能となります。また、主観のみに頼らない客観化した情報を活用しながら生徒が自己の学習を評価・改善し、それを繰り返すことは生徒が自身の学びを“自己調整する力”を高めることにつながると考えています。

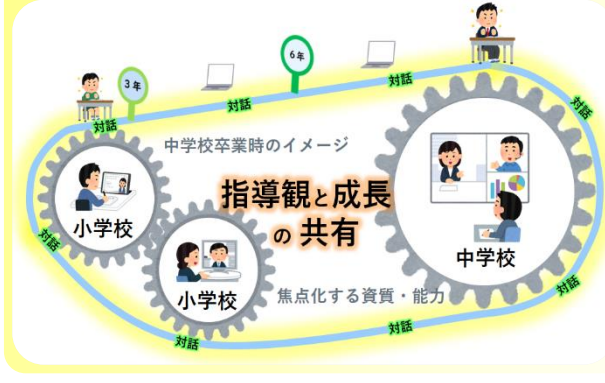


多角的に事象を捉え 結論付ける力の育成を目指して ～小中協働による授業改善からのアプローチ～ 研究員：藤本 裕之

中学生になると急激に低下する“学習は実生活でも役立つ”という意識。昨年度は、学習への内発的な動機付けにもつながるこの意識の差をうめることで、小中の学びの連続性を追究しました。様々な場面に応用が利く「生きて働く知識」や「見方・考え方」を習得し、それらを未知の事象を捉える際に発揮することで、「覚える」から「使える」という実感をもつことができるように実践を重ねました。今年度は、そこで得られた成果や課題を土台に、小学校教員と中学校教員が焦点化する資質・能力や指導観、児童生徒の成長について対話、共有し、小中協働で授業実践していきます。

本市では平成23年度より、すべての中学校区で小中一貫教育が推進されています。とはいえその多くが施設を隔てた環境下にあり、各々が日々の業務を進めながら小中協働で授業実践を重ねることは難しさもあります。

そうした現状もある中で、どうすれば持続可能な小中一貫教育を手段として、付けたい資質・能力を高めることができるのでしょうか。その一方策を実践・検証し、提案していきたいと思っています。

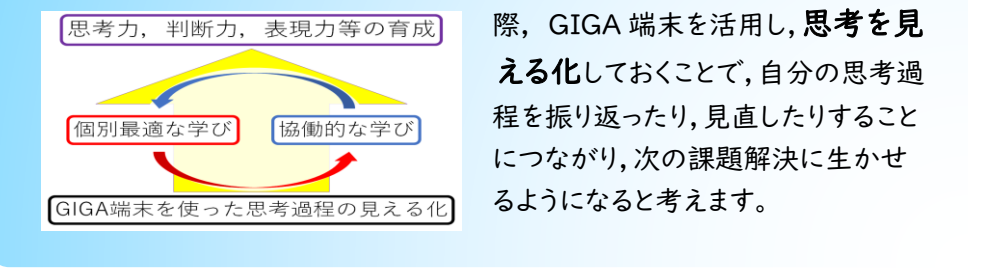


数学科における「個別最適な学び」と 「協働的な学び」の充実を目指して ～GIGA端末を活用した思考の見える化を通して～ 研究員：寺井 淳

日常の事象に算数・数学を生かすときに求められるのは、数学的な見方・考え方です。中学校数学科と小学校算数科では学習内容の違いはありますが、いずれも授業での課題解決を通して、数学的な見方・考え方を豊かにすること、数学的に考え表現する力を育成することを目指しています。一人一人に合わせた学習活動、全員が自分の考えを伝え合うことができる授業の在り方を共に研究していきたいと思っています。

数学の授業で、「見通しを立てる→自分で考える→発表して意見交流する」といった授業を展開し、自力解決や集団解決の時間をとっているにもかかわらず、考えることに向かうことができない生徒、解決の仕方をノートに書いているのに、その時間に「何を学んだか」「どのように活用できるのか」を考えることができず、学んだことを次の学習に生かせない生徒がクラスにいませんか。

本研究では、解決の見通しを立てる場面や解決方法を考える場面で、自分の考えを説明したり、お互いの考えを比較したりする活動を取り入れます。その



際、GIGA端末を活用し、思考を見える化しておくことで、自分の思考過程を振り返ったり、見直したりすることにつながり、次の課題解決に生かせるようになると思います。